

ぶどう無核大粒品種「シャインマスカット」の産地振興

■背景とねらい

南信州管内では、ぶどう「シャインマスカット」の生産者が年々増えているが、ぶどう栽培が初めての生産者が多いため、房型や房の大きさが不揃いで品質が統一されていないものが見られており、技術向上による品質の確保が急務である。

そのため、栽培情報の共有化や熟練農業者の技術継承等により産地振興を図るべく重点活動課題として、令和元年度から取り組んでいる。

昨年度は、栽培経験が浅い生産者を対象に、南信州シャインマスカット研究会を発足し、今年度は、この研究会を中心とした取組を行った。

■本年度の取組と成果

1 担い手確保と情報ネットワーク化

(1) 研究会による産地力強化

ア 南信州シャインマスカット研究会の運営

研究会員に対し、情報紙「研究会通信」により技術情報を提供し、作業のポイントを伝達すると共に、適期作業を促した。

また、研究会への新規加入を勧め会員数は6名増の81名となった。

イ 情報ネットワーク化の推進

会員相互の情報交換や、タイムリーな技術情報等を提供できる場として、SNSアプリのチャット機能を活用した会員制のネットワークを構築した。

2 栽培技術の向上と省力技術の検討

(1) 現状分析と課題の把握

ア 栽培者の現状把握

研究会員の中で、結実樹齢に達している生産者6名を重点対象者として選定し、目標の房型とするための管理等について巡回指導するとともに、栽培上の課題を把握した。

イ 房型の違いと果実品質の検討

房型と果実品質について検討するため試験ほ場を設け、調査研究に取り組んだ。調査結果等に基づきリーフレットを作成し、研修会で配布するな

ど適正な房づくりへの誘導を図った。

(2) 技術の習得支援

ア 栽培技術の徹底

研究会員を対象として栽培技術研修会を3回開催し、のべ144名の参加があった。また、JAみなみ信州ぶどう部会、下伊那園協研究会の協力の下、講習会を実施し栽培技術の向上を図った。

イ 課題設定による技術向上

強樹勢園での品質向上対策について、植物成長調節剤を使用した現地実証を行った。

(3) 省力化技術の推進

ア 省力器具の効果の検証と普及

花穂成形機は、生産者に実際に使用してもらった結果、明確な省力効果が認められなかった。腕上げ補助器具については、房管理等の軽労化が図られるため引き続き普及推進を図る。

3 ICT活用に向けた栽培技術の収集と活用方法の検討

(1) 熟練農業者のデータ収集

ア 栽培技術の集積

前年度に引き続き、熟練農家の協力を得て栽培管理作業の動画撮影を行った。

(2) データ活用方法の検討

ア データ化による管理技術の一般化

作成中の動画マニュアルの一部を活用し、2月の研修会においてせん定等の講習を実施した。また、SNS上で各作業の実施時期に合わせ動画を提供して栽培技術の向上を図った。

■今後の課題と対応

研究会員の資質向上を目的とし、小集団による課題解決の実証研究を行う。新規生産者向けの動画マニュアルの作成や、SNSのネットワークでの活発な交流を支援し、経験の浅い生産者が早期に技術習得できる環境を構築する。また、指導会等により35粒の房型の定着を図る。

(地域第一係：木下 倫信)